

刈田町立図書館 新着推し本紹介のコーナー

6月の推し本



『教養の書』

戸田山 和久 // 著 筑摩書房 請求記号 002 /ト/ 資料番号 610108656

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00598400>

【紹介文】 教養のある人になりたい...ふんわりとした願望に教養の無さが露呈しているようでちょっと恥ずかしい。本書では、「教養とはそもそも何か。なぜ大切なのか。」ということを平易な言葉で学生向けに書いてある。表紙とタイトルはお堅そうな印象だが、著者の幅広い知識とユーモアたっぷりに軽い調子で語られる文章のおかげで、少し難しいと思う部分もあるが抵抗感なく巻末の注釈まで楽しく読める。教養を身につけることで生き方が変わってくる。日々の生活が、映画一つ見るにしても読書するにしても、もっと楽しく感じることができる。そんな具体的な著者からのアドバイスがたくさん詰まった本書、学生向けではあるが、大人にもオススメだ。

『あなたの不安を解消する方法がここに書いてあります。』

吉田 尚記 // 著 河出書房新社 請求記号 361.4 /ヨ/ 資料番号 610112427

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00599111>

【紹介文】 このご時世、新型コロナウイルスのせいで「3密」だの「ソーシャルディスタンス」だの「リモート飲み会」など人間を取り巻く環境が変わってきている。それでも、根本は人間どうしのつながり、コミュニケーションのとり方が必要な訳で、そのとり方に迷い・不安が付きまとい始める。「不安というのは、基本的に自分事で、他人にわかってもらいにくい。だから、ひとりで抱えて悶々とするしかなかったりします。」（本書はじめにより）
作者は、ニッポン放送アナウンサー。アナウンサーは特にコミュニケーション力（コミュカ）が必要じゃないかと思われがち。そのコミュカをつけるためのメソッド（方式）を中学生でもわかるように解説している。もう、10代から他人との距離を考えないといけない。

『iPS細胞の研究室』

志田 あやか // 著 東京書籍 請求記号 491.1 /シ/ 資料番号 610111411

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00598996>

【紹介文】 山中伸弥教授が2012年にノーベル生理学・医学賞を受賞し話題になったiPS細胞。この本には私たちが知らなかったiPS細胞を使った様々な研究について分かりやすく書かれています。その中でも特に驚いた研究が2つ。1つはFOPという非常にまれな病気に対して、iPS細胞使って薬をみつけるという研究。2つ目はキタシロサイという現在2頭しか残っておらず絶滅の危機に瀕しているサイの細胞からiPS細胞を作り、絶滅を回避させるという研究。医療だけでなく動物にもiPS細胞を活用できることを初めて知りました。本の中では将来病気になったときiPS細胞を使った治療をうけるかもしれないと書かれています。そう思うと少し身近に感じられます。

『神木探偵』

本田 不二雄 // 著 駒草出版 請求記号 653.2 /ホ/ 資料番号 610111882

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00598937>

【紹介文】 宮崎駿の映画「もののけ姫」の中で、木々たちからたちのぼる神々しい息吹を画面に閉じ込めて描いている。「カミ」についてふれるとき、畏れの念を抱くものは全て神なのだそう。この本で紹介されている樹木は、どれも魂を吸い寄せられるようで、その前に立つと敬虔で厳かな気持ちになる。霊性を宿しているかの如く、これら樹木に私たちは畏れを抱くのである。日本各地にある御神木に会いに行き、目の当たりにしてほしい。きっと見えない力に押し戻されることだろう。

『一生勝負 マスターズ・オブ・ライフ』

高橋 秀実 // 著 請求記号 780.4 / 夕 / 資料番号 610110702

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00598811>

【紹介文】総務省の統計によれば高齢者（65歳以上）の総人口に占める割合は、日本は28.4%で世界最高だそうです（2019年）。この本は、その日本で現役アスリートとして活動する71歳から89歳まで（取材当時）全24組を紹介しています。若い頃からの競技を続けている、一度引退して退職後に再び始めた、80歳から始めたなど、きっかけは様々。コメントも「練習はしないんです、私」、「かつて強かった人との差もなくなっていくんです」、「何もしないで楽しんで勝ちたい」などなど。共通しているのは今を大事に生きるキラキラした笑顔。生き甲斐は何歳になっても見つけれられるのだ、と感じます。

『話すチカラ』

齋藤 孝 // 著 安住 紳一郎 // 著 ダイヤモンド社 請求記号 809.2 / 夕 / 資料番号 610107518

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00597884>

【紹介文】なんと齋藤孝先生と安住アナは明治大学時代の先生と教え子なんだとか！なるほど、安住アナの聞きやすいし分かりやすい話し方のルーツはここだったのか。明大生に講義した内容を紹介していて、押し付けたり説教じみていないので自分が大学生になった気持ちになれます。こんな講義を聞いてみたかったな～。人と向き合って話すことがなかなか出来ない現状ですが、会話って大事なんだと改めて感じさせてくれる一冊です。

『虫ガール ほんとうにあったおはなし』（児童書・絵本）

ケラスコエット // 絵 岩崎書店 請求記号 E / 夕 / 資料番号 620041095

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00599105>

【紹介文】カナダに住んでいる11才の女の子がかいた実話絵本。虫ガールって、周りから嫌がられてしまうようです。ソフィアは、好きなものを好きだということでみんなからかわれて、とてもつらいおもいをします。そんなとき、ママのひとつのメールがソフィアの世界を変えていきます。せかいにはいろんな人がいて、ひとりぼっちではないんだよと気づかせてくれる一冊です。本の最後にはソフィアのしらべた虫の研究がかいてあります。これから虫が動き出す季節よく見てみるとおもしろい発見があるかもしれませんよ。

『ゆりの木荘の子どもたち』（児童書・ものがたり）

富安陽子 // 作 講談社 請求記号 913 / 夕 / 資料番号 620041137

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00599109>

【紹介文】子どもころのやくそく、わすれたものはありますか？ゆりの木荘は有料老人ホームです。そこには、4人のおばあさんと2人のおじいさんがくらしています。げんかんホールにある大きな振り子時計のまほうのスイッチを動かしてしまっ、77年前にもどってしまいます。それは、あるやくそくをはたすためのまほうだったのです。やくそくの相手はざしきわらし。77年たってもかなえなければいけないやくそくとは何だったのか。子どもにもどったおばあさんはきおくの糸をたどっていきます。

問い合わせ先

苅田町立図書館 ☎093-436-0946

開館時間：9：30～17：30（木・金は19：00まで。本館のみ）

ホームページから蔵書検索もできます



(2020.6.5発行)